

④ 1人1台端末の利活用に係る計画（抜粋） I

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市がこれまで取り組んできた人と関わり合いながら学ぶ「学び合う学び」を引き続き推進する。モバイル性が高く、使い勝手の良い1人1台端末、クラウドサービスの活用を前提とした通信ネットワークなどのICT環境を整備し、学びの道具としてICTを活用することにより、「時代を切り拓くこども」の育成を目指す。

・時代を切り拓くこども～ICTで伸ばすこどもの力～

- ①情報を収集する力
- ②情報を取捨選択し、読み解く力
- ③論理的・創造的に思考する力
- ④課題を発見・解決し、新たな価値を創造する力
- ⑤よりよい社会や人生のあり方について考え、学んだことを生かそうとする力

2. GIGA第1期の総括

- ・令和元年度には、小学校2校及び中学校2校をモデル校に指定し、3クラスに1クラス程度の端末を先行整備し、その後、令和2年度には、国のGIGAスクール構想を踏まえ、1人1台端末を整備した。
- ・令和3年度から、全小中学校の全学年において、月1回以上の端末の持ち帰りを実施し、家庭学習においても端末を活用してきた。
- ・クラスメートとリアルタイムで考えを共有する授業支援ソフトウェアや理解度にあわせて問題を出すAI型のデジタルドリルを利用するなど、多種多様なデジタルコンテンツを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進してきた。

④ 1 人 1 台端末の利活用に係る計画（抜粋）Ⅱ

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

GIGA第1期では、1人1台端末を「学びの道具」として日常的に活用することに力を注いできた結果、1人1台端末はもはや児童生徒にとって必要不可欠な学びの道具となっている。

（1）1 人 1 台端末の積極的活用

- ・教員がICT活用の目的を理解し、ICT活用指導力を向上できるよう、研修を計画的・定期的を実施する。
- ・ICT支援員を継続的に配置し、ICT活用の各種支援や授業実践事例等の蓄積・情報共有を行う。
- ・端末の家庭への持ち帰りを日常化し、学習者用デジタル教科書、AI型デジタルドリル、授業支援ソフトウェア等を校内及び家庭学習で活用する。

（2）個別最適・協働的な学びの充実

- ・こどもたちが自らの考えで、目的や場面に合わせてICTを使い分けて効果的に活用し、課題を発見・解決する力を育成する。
- ・教員と児童生徒、児童生徒同士がやりとりする場面でICTを積極的に活用し、協働的な学びの充実する。
- ・児童生徒一人ひとりの特性にあった方法で学習を進めるため、AI型デジタルドリル等で取り組んだ学習履歴をはじめとする教育ビッグデータの収集・分析・活用方法について研究する。

（3）学びの保障

GIGA第2期では、日常の授業で端末をより効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面でICTを活用する。